

**留学先国名** : アメリカ合衆国

**留学先学校名** : ベルビュー大学

**留学期間** : 平成 26 年 9 月 13 日 ~ 平成 27 年 9 月 1 日

留学後半となった半年間は春学期の三ヶ月をベルビューカレッジで過ごし、最後の三ヶ月でインターンシップを経験し、短期間ではありますが、海外ビジネス経験を積みました。留学の最初の半年に比べて、後半は時間が過ぎるのがとても早く感じ、気がつく頃には帰国の途についていました。春学期は自身の専攻である国際関係論の授業をとることが留学当初からの目標の一つでしたので、現地の学生にとっても難易度が高いという評判にも関わらず、チャレンジしました。指定された 20 ページほどの教科書や学術記事を読み、小さなカードに要点をまとめ、授業の初めに提出することが毎日の宿題だったので、お昼過ぎに授業がすべて終わった後は、図書館でひたすらその宿題をしていました。また、毎週末レポートの提出があったので、土日はその課題に追われていました。授業中は、レクチャーだけでなくグループディスカッション、グループワーク、ディベート等もあり、英語においてハンデを抱える私にとって周りの学生や先生の助けは必要不可欠でした。私にとって間違いなく高いハードルでしたが、必死に対策した期末テストを終え、無事に単位を取ることができたことに非常に大きな達成感を感じました。また、国際関係論のベースとなる考え方が私にとっては日本語での説明より、英語での説明のほうが頭に入ってきやすく、自分の専攻分野についての理解がより一層深まったので、帰国後の大学での勉強においても留学で得た知識はきっと役に立つと確信しています。授業に加えて、春学期をより一層タフな三ヶ月にしたのが就職活動ならぬ、インターンシップ活動でした。インターンシップは留学プログラムの一部に組み込まれていますが、学校が手助けしてくれるのは、レジュメとカバーレターという日本でいう履歴書と添え状の書き方、そして面接練習のみで、企業やNPO団体へのインターンシップの応募は個人でコンタクトをとってインターン生の受け入れをお願いしました。メールを送っても返信がない企業や、そもそもインターン生を募集していない企業もありました。特に、メールが返ってこず、電話で連絡をするときはとても緊張しましたが、理解できるまで何度も確認しながらミスコミュニケーションが生まれないように心がけました。そうした電話フォローや企業リサーチを続けていくうちに、シアトルのダウンタウンにあるワーウィックインターナショナルホテルから面接の機会を頂き、そのままサマーインターン生として受け入れていただくことができました。

したがって、夏学期は毎日フルタイムでホテルのフロントにてインターンシップを経験しました。業務内容は、接客、道案内、電話対応、日本人客のチェックイン・チェックアウトの補助、事務作業等でした。接客業であるだけに、同僚はおしゃべり好きが多く、お客さんがいるときもいないときも常に英語が聞こえてくるような英語学習者には最高の学習環境だったと思います。さらに夏はシアトルにとって一番の観光シーズンであるため、多くの観光客で平日もホテルが満室になるほどの賑わいでした。そんな忙しい中、フロント業務、コンシェルジュ業務やゲスト・サービス・マネージャーの仕事などを間近で見て、体験させていただく機会をたくさんいただくことができました。文化的に日本の接客より何倍もフレンドリーで、ゲストに対してジョークを言

うのも当たり前環境に、少し驚きました。また、今までフルタイムで働いた経験はなかったので、初めはとにかく体力的に厳しかったです。毎日疲れすぎて、仕事が終わったら、まっすぐ家に帰って、ホストマザーと晩御飯を食べたら、すぐにベッドに入って寝ていました。また、自身の限られた英語スキルではゲストに満足いく対応ができず、自分のふがいなさに落ち込むことや、自信を喪失して、上司に泣きながら相談したこともありました。それでも、支えてくれる上司を初めとした職場の方々、ありがとうと言ってくれるホテルのゲスト、相談に乗ってくれる友達、話を聞いて、励ましてくれるホストマザーのおかげで最終日まで続けることができました。最も自分の成長を感じたのは電話対応の業務です。初めは英語を聞き取れないことが多く、保留ボタンを押して、同僚に代わってもらっていましたが、毎日何十回も電話を取っているうちに、内線も外線も相手の求めていることを聞き取って、適切な対応をできるようになりました。最終日にはインターンシップ中にお世話になった方々が送別会を開いてくださり、手紙やプレゼントもいただきました。上司からは冗談交じりではありますが、このままこのホテルに就職する気はないかと聞かれました。短期間ではありますが、上司のその一言は自分がこのインターンシップを通して、良い人間関係を構築し、スキルの面でも精神面でも大きく成長できたという大きな自信をくれました。

一年間の留学中に特に印象に残ったことの一つにインターンシップ開始前に参加した留学先の大学主催の3泊4日のリーダーシップ合宿があります。シアトル郊外の合宿所で100人超の同じカレッジの学生とともにリーダーシップや多様性について考える様々なワークショップや、グループアクティビティを経験しました。学生は約10人ずつのグループに分けられ、チームでの団体行動が求められます。中にはチームメイトを信頼しないとクリアできない、難関フィールドアスレチックに挑むアクティビティもありました。例えば、高木と高木の間の高さ25メートルのところに細い一本橋が渡してあり、木を登ってその橋を渡るチームメイトのハーネスについた命綱を残りのチームメイト達が引っ張って支えるというアスレチックコースを体験しました。チームメイト同士が信頼しあっていないと成功しないため、チーム全員集中していたのを覚えています。しかし、時にはチーム内で意見が割れることも多々ありました。そんな時、性格上、そして英語のスキルの的にも自分の意見をはっきり述べることはできませんでした。現地学生は私が入りこむスキがないくらいものすごい勢いで話していて、たまにどう思う？と彼らに尋ねられたときしか発言できませんでした。これは今後も私自身の課題であり、もし将来海外の方と仕事をする機会があれば、負けずに議論についていけるようになりたいと強く思わせてくれた出来事でした。たった4日間でしたが、このリーダーシップキャンプは、多くのアメリカ人学生、他国からの留学生と知り合い、考えを共有し、文化の違いについて深く考えさせられる留学生活の中でも印象深い時間でした。

留学中は何度も日本が恋しくなることや、自分の力不足に落ち込むこと、初めてのことで不安になることがありましたが、ホストファミリーをはじめ、友人、先生、同僚の方々などと良い人間関係を築けたことで、一年間、乗り越えられたように思います。自分がどの国にいても、人を信頼して、また自分も信頼してもらえるように行動することで新しい環境も少しずつ自分の安心する環境に変えていくことができるのだと実感しました。シアトルでお世話になった人達や友達とは、離れてはいるもののSNSやメールを通して連絡を取り続けていますし、いつかもう一度シアトルに会いに行きたいと思っています。そして、留学で得た語学力のみならず、コミュニケーションスキル、ネットワーク、経験、知識を、現在留学に行こうか考えている日本人の方たちと共有して、少しでもその挑戦の力になることができれば幸いです。また同時に、残りの大学生

活や卒業後のキャリアにこの一年間の留学経験を思う存分活かし、グローバルに活躍したいと思っています。最後になりましたが、おおさかグローバル奨学金を通して、留学を支援してくださった大阪府国際化戦略実行委員会様に心より感謝を申し上げます。